

## 埼玉親善大使レポート

### 2025 年度「NIPPON SIGNAL グローバルチャレンジ奨学金」

桑原健伸 ドイツ/ブランデンブルク工科大学

#### ・はじめに

留学に際して、日本信号株式会社様により多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。経済的な不安なく学業および現地での活動に専念できたおかげで、非常に実りある留学生活を送ることができました。留学中は、生活環境や言語の壁など、想定以上の困難に直面することもありましたが、現地で出会った方々に支えられながら、一つひとつ乗り越えることができました。ドイツの大学での単位修得のみならず、多様な背景を持つ学生との交流を通じて国際的な視野を広げられたことは、私にとって大きな財産となりました。このような貴重な機会をいただけましたのは、ひとえに貴奨学金のご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

#### ・現地での生活について

私が滞在したコトブス市は、人口約 10 万人の地方都市です。旧市街地は歩行者専用道路が整備され、クリスマスマーケット等の地域イベントの場として活用されている点が印象的でした。市内はトラムやバスといった公共交通網が充実しているほか、自転車専用道路の整備が徹底されており、歩行者・自転車・自動車が適切に分離された都市設計は、日本の都市計画にも通ずる学びがありました。



また、北欧に近い気候ゆえに、太陽光の重要性を痛感しました。冬場の日照時間は約 4 時間と短く、曇天が続く日も多いため、現地の学生たちがビタミン D のサプリメントを摂取するなど、健康維持に努める姿を目の当たりにしました。実際に自分自身も活気が低下する感覚を抱き、日照が精神や健康に与えるエネルギーの影響を身をもって体験しました。

#### ・活動に関して

留学先のブランデンブルク工科大学では、専門である都市計画・デザインに関する講義を中心に、「ベルリンの都市計画」「気候変動と交通計画（BMW 社との提携講義）」「人口変動と都市デザイン」の 3 つの授業を履修しました。ドイツの大学は 1 科目あたりの単位数が大きく、1 回の講義が 6 時間に及ぶこともあり、その密度の高さに驚



かされました。また、社会人経験を持つ学生も多く、年齢層が幅広いクラスで常に活発な議論が交わされる環境は、非常に刺激的でした。

自習の拠点とした大学図書館は、7階建てのモダンな構造で、一般市民にも開放された公共性の高い空間です。階ごとに異なるデザインや、集中とリラックスを両立させる設備（モニター完備のデスクやオーディオ付チェアなど）が整っており、修士論文の研究や難易度の高い課題に取り組む上で、これ以上ない環境でした。

さらに、ポツダム等の他都市へのフィールドワークを通じ、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の先進事例や、住宅のエネルギー効率化、徹底した歩車分離政策などを、居住者目線で実際に体感することができました。

#### ・埼玉県をPRした活動について

留学期間中、パンフレットやSNSを活用し、交流を深めた諸外国の学生や現地の方々に向けて埼玉県の魅力を発信しました。実際にパンフレットを手にした友人からは「自然と都市のバランスが良い」「かわいい（マスコットや風景など）」といった好意的な反応が多く、訪問への強い関心を得ることができました。特に、都心からのアクセスの良さや、主要都市から乗り換えなしで移動できる利便性は、外国人旅行者にとって大きな魅力として映ったようです。

一方で、国際的な知名度の低さという課題も実感しました。出身を問われた際、東京や大阪といった大都市の名を出すことで会話の端緒を開く場面が多くありましたが、これは単なる知名度の問題だけでなく、相手が日本への関心を示す「コミュニケーションの第一歩」として機能している側面があると感じました。今後は、東京近郊という立地を活かしつつ、豊かな自然や独自の文化を「東京観光に付随する新たな選択肢」として提示し、戦略的に誘致を図ることが有効であると確信しました。



#### ・最後に

本留学で得た都市計画に関する専門的知見と、異文化の中で培った国際的な視野を活かし、今後は修士論文の完成、そして将来的な社会貢献に努めてまいります。本経験を通じて得た成果を少しでも社会に還元することで、賜りましたご支援への恩返しができればと考えております。